

もの言う牧師のエッセー 第303

「自分におどろく」

ミリオンセラー「葉っぱのフレディ」やロングセラー「あたらしい憲法のはなし」など、絵本や詩集を出版する「童話屋」の代表で、40年間、200冊ほどの本を手がけてきた田中和雄さんが、82歳になって初めて自分の本「自分におどろく」を出した。「『あなたの存在は奇跡なんだよ』と子どもたちに伝えたかったんです。」

幼稚園時代、母親に「おまえは生まれる前からウソつきだ」と言われた。男ばかり3人兄弟の三男。母親のおなかの中でよく動く田中さんに「きっとまた男の子ね」と女の子をほしかった両親が中絶を話し合った夜、胎動がぴたりと静まった。母親は「もしや女の子？」と期待し産んでみたが、また男の子だった、と。「ショックでした。僕はなぜ生まれてきたのか、ずっと悩みました」。だから今回の本は人生80年をかけて導き出した、自分への答えでもあるという。ビッグバン、地球の誕生、生物の進化、何億分の1の奇跡みたいな確率をくぐり抜け、君は生まれたんだよ、と。「『自分に生まれてきて良かった』と子どもたちに心から感じてほしくて」、田中さんは4年前から小中学校で詩の授業を続けている。

聖書中で屈指の詩人ダビデは、今から約3000年前、

「あなたの指のわざである天を見、あなたが整えられた月や星を見ますのに、人とは、何者なのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とは、何者なのでしょう。あなたがこれを顧みられるとは。」

詩篇8章3-4節、

と歌っている。何億分の1の偶然にではなく、神によって造られ、今も愛され守られている自分に驚き、また、ちっぽけな存在でしかない人間を今日も導いて下さる神の愛にも驚いている。それだけではない。神は罪にまみれた人間を救うためにイエスを送って下さった。これら全てが奇蹟であり、それは神が私たちが愛しているがゆえである。イエスの愛にも驚こう。

2017-9-28

